

## 避難手段・誘導等の具体化に向けた進め方について

令和 4 年 9 月 6 日（火）

首都圏における広域的な避難対策の具体化に向けた検討会（第 2 回）

# 広域避難計画の策定段階への移行

- 令和4年3月にとりまとめた「広域避難計画策定支援ガイドライン」を踏まえ、東京東部低地帯では広域避難計画を策定するフェーズに移行していく必要。
- 広域避難計画の策定に向け、ガイドラインの記載内容を具体化した計画のひな型として作成する「広域避難計画モデル」において、避難手段・誘導等の具体化に向け、記載する内容を整理。

## 避難手段・誘導検討の考え方

### 【避難手段】

- ・ 広域避難では、多数の住民が長距離の避難を行う必要があるため、輸送力の大きい鉄道が重要な避難手段となる。
- ・ 一方で、鉄道やバス等の公共交通機関は、乗客・乗員の安全確保等のために計画運休等が実施されるため、**計画運休等を前提に避難手段の確保**を検討する必要がある。
- ・ 広域避難情報発信の判断にも影響する重要な情報である**計画運休時期は、関係者での情報共有が重要**である。
- ・ 広域避難では、**刻々と変わる状況に応じて避難手段毎の対応を変える**必要があり、平時から検討しておくことが重要である。
- ・ 多数の住民が広域避難を行う上で、避難手段の確保に加え、**どのように住民に周知するか**も重要である。

### 【避難誘導】

- ・ 多数の避難者による混雑・渋滞が懸念されるため、避難誘導による**円滑な避難や人的被害防止**を図る必要がある。
- ・ 混雑箇所をあらかじめ想定・共有し、**誘導箇所の絞込みとその箇所ごとの対策**を検討しておくことが必要である。
- ・ 避難手段と同様に**誘導箇所や方法も状況に応じて変わる**ため、その対応を検討しておくことが重要である。
- ・ **行政による現地での対応は限度がある**ため、混雑状況の周知等により、**避難者自らが混雑回避**を図っていただく取り組みも必要である。

# 広域避難手段の検討対象とするタイミング

- 鉄道は**広域避難を促す情報の発信時から減便開始までの期間**を対象に、**増便の可能性やタイミング**を検討。
- バスは**自主的な広域避難を促す情報の発信時から道路の混雑が発生するまでの期間**を対象に、**バス活用の可能性**を検討。
- また、これまでの検討も踏まえ、**タイミングや避難手段ごとに行うべき内容の具体化**を図る。

